



コマ印管継手

# MRジョイント II

## 施工要領書

(ステンレス管の接続)

### 目次

1. 継手構造及び各部の名称	1 頁
2. 施工工具	1 頁
3. 管の切断	2 頁
4. 管のバリ取り・面取り	2 頁
5. 管端部の確認	3 頁
6. 継手への管の差し込み	4 頁
7. マーキング	5 頁
8. 袋ナットの本締め	6 頁
9. 施工後の確認	7 頁
10. 施工後の注意	8 頁

株式会社 リケン

配管機器事業部

## 1. 継手構造及び各部の名称

継手構造：MRジョイントⅡ継手は、袋ナットを締付けることにより、スリーブを管に圧着させ、流体のシール及び管の抜け出しを阻止する圧縮式の継手です。

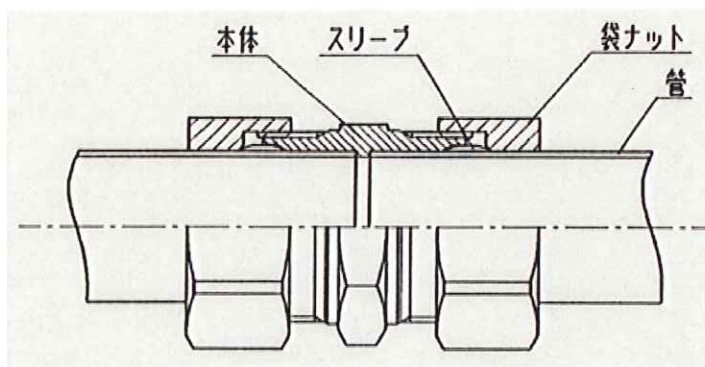


図-1 MRジョイントⅡ継手の構造

### 【使用前の継手取り扱い上の注意】

MRジョイントⅡ継手のスリーブは、軟質材のため、変形し易いので取り扱いに注意して下さい。施工前に不用意に袋ナットを外したり、強く締付けたりしないで下さい。(スリーブを変形させてしまいますと、継手に管が挿入できなくなります。)

## 2. 施工工具

- |               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 1. 管の切断工具     | ロータリーチューブカッター、または、弓のこ      |
| 2. 袋ナットの締付け工具 | モンキーレンチ、又はスパナ              |
| 3. その他        | ヤスリ、スケール、油性マジック(黒)、バイスクリップ |

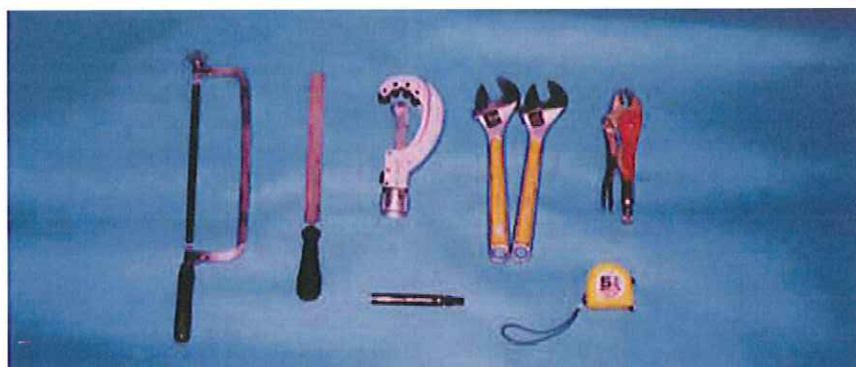


写真-1 MRジョイントⅡ継手 施工工具一式

### 3. 管の切断

ロータリーチューブカッター、または、弓のこを用いて管軸線に直角に切断して下さい。  
(管の切断は、外バリの発生しにくい、ロータリーチューブカッターの使用をおすすめします。)



写真-2 ロータリーチューブカッターを用いた管の切断

！注意 管を切断する際に、管端部を変形させたり、キズを付いたりしないよう注意して下さい。漏れの原因となります。

### 4. 管のバリ取り・面取り

ヤスリを用いて管端部のバリ取り、面取りを行って下さい。

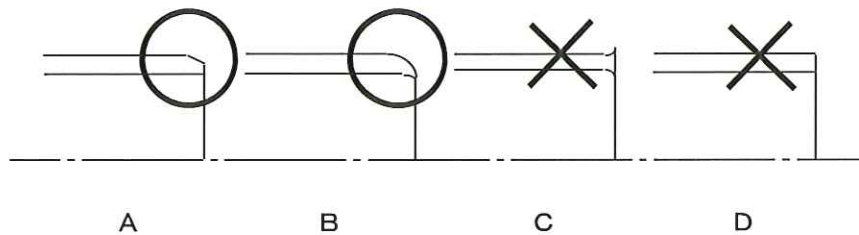


図-2 管端部の仕上げ状態

！注意 管にバリが付いたまま使用しますと、管を継手に差し込む際に、スリーブに傷を付ける恐れがあり漏れの原因となります。バリ取りは必ず行って下さい。

## 5. 管端部の確認

1. 管端部(L)の範囲にキズや変形のないことを確認して下さい。  
キズや変形があると漏れの原因となりますので、キズや変形がありましたら、再度、切断し直して下さい。
2. ウエス等で管内外面のゴミや汚れを取り除いて下さい。

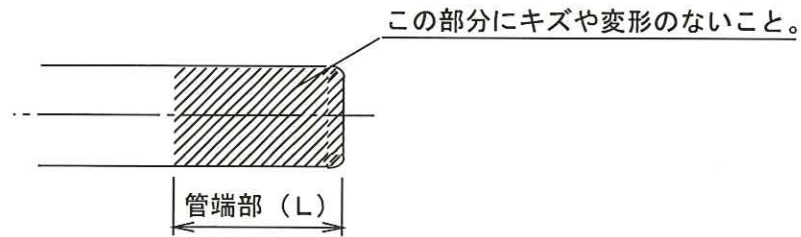


図-3 管端部の確認範囲

表-1 管端部のL寸法

呼び	管端部 (L)
1 3 Su	2 5 mm
2 0 Su	3 0 mm
2 5 Su	3 5 mm

## 6. 継手への管の差し込み

袋ナット、スリーブ、本体を分解せずに、管を継手内部のストッパー(図-4 参照)に突き当たるまで差し込んで下さい。



写真-3 継手への管の差し込み

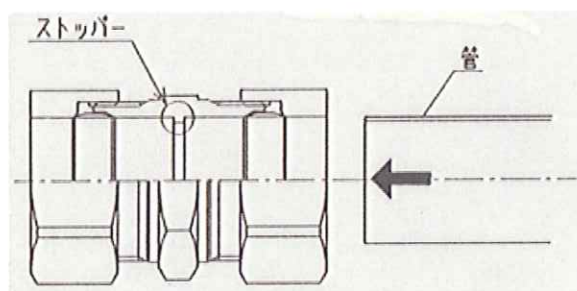


図-4 継手内部のストッパー

！注意 スムーズに管が差し込めない場合には、つぎのことが考えられますので確認して下さい。

1. 管のバリ・面取り不足。 → バリ取り面取りを再度行って下さい。
2. 管の変形。 → 管を切り直して下さい。
3. スリーブの傾き。 → 袋ナットを緩めてスリーブの傾きを直して下さい。(図-5 参照)

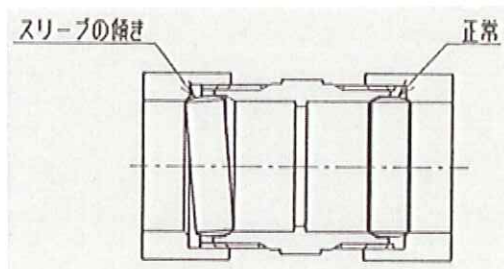


図-5 スリーブの傾き

## 7. マーキング

1. 管がストッパーに当たった状態で、袋ナットを手で軽く締付けて下さい。
2. 油性マジックで確認マーク A、B を付けて下さい。



写真-4 マーキング

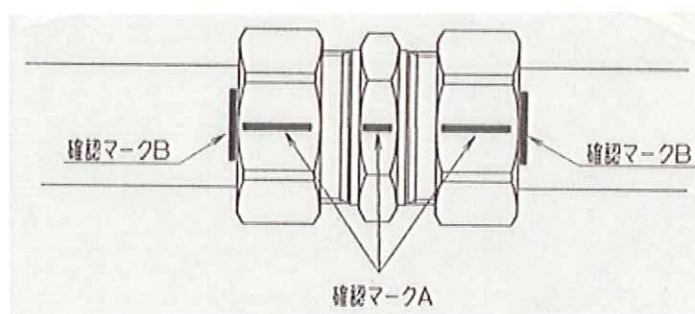


図-6 確認マーク A, B

- ！注意** 確認マーク A は、締付け量を確認するための印です。また、確認マーク B は、継手への管の差し込み量を確認するための印です。  
この 2 つの印は、継手の締付け状態を管理する上で大切なものです。必ずマーキングを行って下さい。

## 8. 袋ナットの本締め

本体と袋ナットに付けた確認マークAを基準に、スパナ、または、モンキーレンチを用いて袋ナットを1回転と1/6締付けて下さい。



写真-5 袋ナットの本締め

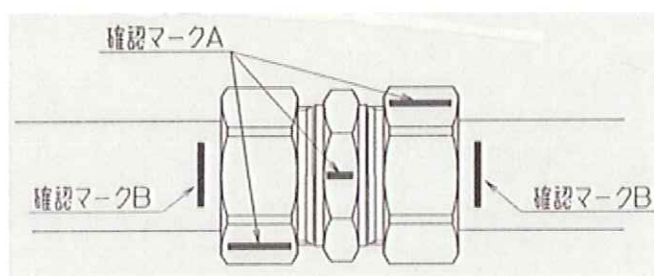


図-7 本締め後のマーキングの位置

- ！注意
1. 袋ナットの締付けが不足していますと性能が十分に発揮できませんので、必ず、袋ナットを1回転と1/6締付けて下さい。
  2. パイプレンチでの締付けは、継手を損傷する恐れがありますので、使用しないで下さい。
  3. 締付け際に、レンチが緩いとレンチ掛けが滑り、継手に変形することがあるとともに、急に態勢を崩し危険です。レンチ掛けを完全に行って下さい。また、本体が変形した継手は使用しないで下さい。

4. 図-8のように、①の締付けを行う際に②③の締付けを完了したものを緩めてしまうことがあります。①の締付けの際には、バイスクリップを用いて管が回らないように固定して、①の締付けを行って下さい。

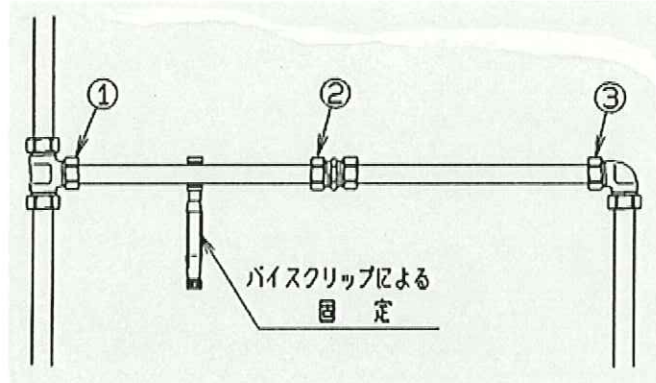


図-8 袋ナット締付け時の管の固定

- ②③の継手に、緩みが発生した場合には、正常な位置(1 1/6回転)から、さらに1/6回転増し締めして下さい。(合計締付け量：1 2/6回転)

## 9. 施工後の確認

1. 袋ナットの締付けが1回転と1/6締付けてあることを確認マークAを見て確認して下さい。

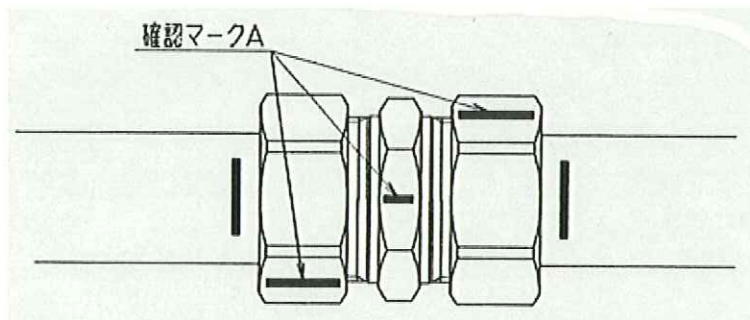


図-9 正常な締付け状態の確認マークAの位置

- ！注意 8項の注意3のような原因で、袋ナットまたは管が緩むことがありますので、緩みが発生した場合には、正常な位置(1 1/6回転)から更に1/6回転増し締めして下さい。(合計締付け量：1 2/6回転)



2. 袋ナットの端面から、確認マークBが5mm以上離れていないことを確認して下さい。  
5mm以上離れている場合は、管の挿入不足です。この場合は、管を切断し接続をやり直して下さい。（この際、スリーブは新品なものに交換してください。）

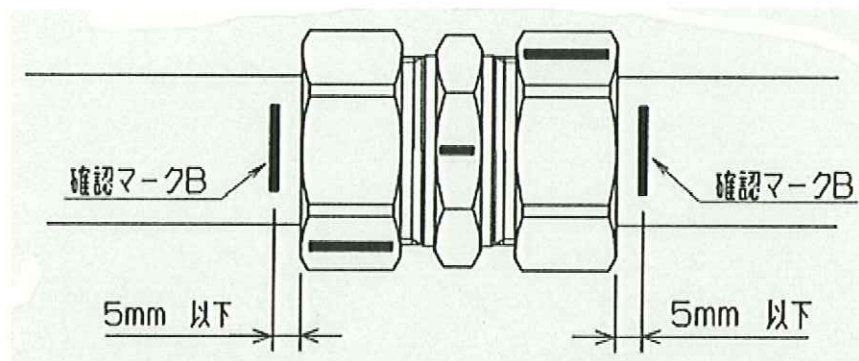


図-10 正常な締め付け後の確認マークBの位置

3. 配管の角度決めの際などで、正しい角度決めができなかった場合には、1度締め付けた袋ナットを緩めての修正は、1回に限り可能です。

！注意 この場合の締め付け量は、正規締め付け量（ $1\frac{1}{6}$ 回転）に対して、更に $\frac{1}{6}$ 回転増し締めして下さい。（合計締め付け量： $1\frac{2}{6}$ 回転）

## 10. 施工後の注意

- ・ 施工後は、配管の上に乗ったり、曲げたりの外力を与えないよう注意して下さい。（漏れの原因となります。）